

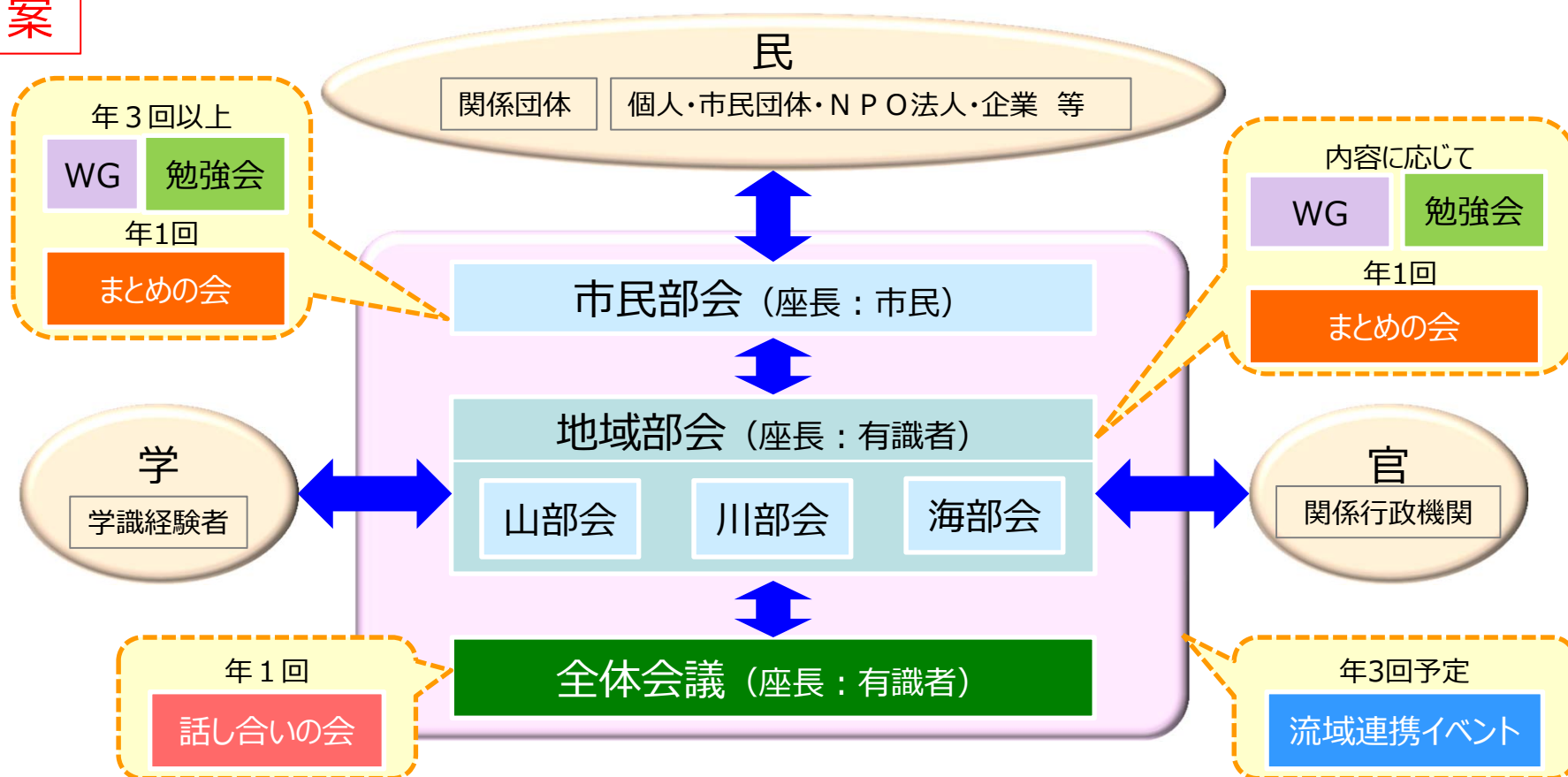
平成30年度以降の懇談会の体制について

資料2

■ 体制図

- これまでの地域部会（座長：有識者）と対等な関係に、市民が主体となる市民部会（座長：市民）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG等は必要に応じて開催するものとし、各部会間の合同部会を設定し、部会間の課題を話し合う。

案



平成30年度以降の懇談会の体制について

■ スケジュール案

- **市民部会**は、12月までに**3回程度**の実施とし、流域連携テーマやイベントについて議論を行う。話し合われた内容については、地域部会にフィードバックして、情報共有と意見交換を行う。
- **地域部会WG**を設け、内容に応じて開催する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を1月に実施する。
- 各WGの中で、**平成31年度以降に何をやっていくか**について意見を出し合い、部会ごとにとりまとめる。
- **合同部会**は、12月までに**2回程度**設け、抽出されたテーマに対して、議論を行う。
- **全体会議**を2月に設け、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- **流域連携イベント**は、今年度実績である「事例集交流会」「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」を想定している。

体制・イベント			月														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2				
市民部会	WG	勉強会		←	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	→		
		まとめの会														●	
地域部会・ 合同部会	WG	勉強会		←	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	→		
		まとめの会														●	
全体会議		話し合いの会															★
流域連携に関するイベント			◎							◎	◎						

平成30年度の山部会の活動計画

部会の3ヶ年の目標（平成28年度～平成30年度）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係とを連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

テーマ別の活動目標（案）

来年度も、地域持ち回りのWGにおいて、以下の4つのテーマの情報共有と意見交換を行う。WGの開催は月1回の実施を目標とし、必要に応じて勉強会を開催する。

①流域圏担い手づくり事例集

- ・事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることを目指した事例集交流会を4月に実施する。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。

②山村ミーティング

- ・森林組合作業班を中心とした100人ヒヤリングを進める。
- ・矢作川感謝祭を流域全体のまつりと位置づけ、さらに発展させていく。
- ・流域圏担い手づくり事例集や木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

平成30年度の山部会の活動計画

③森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の森林が直面している課題と、その解決に向けた具体的な提案を、河川管理者、沿岸漁業者、流域住民にわかりやすく示し、広く共通認識を形成することを目的とした「森づくりガイドライン」作成に取り組む。
- ・森林経営管理法、森林環境贈与税などの国の動きに惑わされることなく、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や自治体の施策をフォローアップする。

④木づかいガイドライン

- ・流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い出を込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」をすすめる。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所等での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い出を尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・木づかいを通して、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させる。